

学 校 教 育 目 標	輝く命 生きる力
目 指 す 学 校 像	「活気ある学校」 ○何事も本気で取り組む生徒 ○生徒の良さを見つけ育てる教師 ○生徒・職員・保護者と一体となった地域
重 点 目 標	1 「学びのポイント」「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業の工夫改善 2 安心・安全な学校生活を目指し、自己肯定感を高める生徒指導・教育相談の充実 3 コミュニティ・スクールのさらなる連携と協働の充実 4 「自分たちの手で学校をつくる」生徒の主体的な活動ができる機会の充実 5 教職員一人ひとりが力を発揮し、居心地の良い学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学びの質の向上に
関する取組

心の子
のサポ
ートに
関する
取組

学校
づくりに
関する
取組

教育環境の整備に
関する取組

教職員のキャリア形成に
関する取組

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、国語、数学は全国、市平均と比べ概ね良い結果である。 ○全ての授業において、落ち着いた授業の雰囲気の中、課題に真面目に取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○ICTを活用した個別最適な学びの実現が必要である。 ○自ら主体的に物事を解決する力を身につけるための授業改善が必要である。	・学びの自律化、探究化に向けた情報端末の活用と授業改善	・「個別最適な学び」を実現するために教科等で研究を実践する。	・学校評価「授業」の項目で生徒・保護者の「はい」の評価の向上（R6:42%→R7:55%）					
		・学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ授業の実施	・「学びのポイント」の視点を踏まえた授業の工夫改善をする。	・学校評価「生徒に課題意識をもたせた分かりやすい授業を行う」の項目で教職員の「はい」の評価の向上（R6:29%→R7:45%）					
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国、市平均を上回った。 ○心と生活のアンケート結果から自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 <課題> ○生徒の心の不安定な状況や長期欠席が問題となっている。生徒一人ひとりの状況を把握し、組織的に支援、相談をする機動的な体制が必要である。	・生徒に寄り添った生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実	・個に応じた対応をするための環境の充実化をする。	・学校評価「教育相談」の項目で生徒・保護者の「はい」の評価の向上（R6:44%→R7:60%）					
		・自己肯定感を高める学校行事等の実施	・教師と生徒の信頼関係の構築が大切であり。授業も含め、ふれあいの時間確保をする。	・学校評価「諸活動の取組」の項目で生徒・保護者が「はい」の評価の向上（R6:74%→R7:85%）					
3	<現状> ○学校運営協議会やPTA、地域の団体等、大宮東中に強い愛着があり、協力と支援体制が確立されている。 <課題> ○学校運営協議会等からの意見を積極的に取り入れ、持続可能な取り組みが必要である。	・学校運営協議会を通した教育活動の質的向上の実施	・学校運営協議会を計画体 に実施するとともに、各地域団体と連携し、地域教育資源を活用した教育活動を実践する。	・学校評価「地域行事への参加」の項目で生徒・保護者の「はい」の評価の向上（R6:20%→R7:40%）					
		・学校の様子を地域、保護者への積極的な情報発信の実施	・学校HPやスクリレを通して、教育活動の情報をより多く発信する。	・学校評価「教育情報の開示」の項目で生徒・保護者が「はい」の評価の向上（R6:56%→R7:70%）					
4	<現状> ○教室棟校舎は古いが整理整頓を心がけている。また、構内は樹木や草花も多く、教職員と生徒が環境整美を行なっている。 <課題> ○「自分たちの学校は、自分たちの手で」という活動をさらに意識づけ、広く活動する体制づくりが必要である。	・教職員の危機意識と生徒自身の自助共助、安全な学校生活の実現	・「人が環境をつくる」ことを念頭におき、研修等を通して、教職員の危機意識レベルを上げる。	・学校評価「危機管理」の項目で教職員が「はい」の評価の向上（R6:32%→R7:60%）					
		・生徒が主体的な活動となる教育活動の実施	・生徒会、委員会活動を通して、自分たちの想いが実現できるよう、教職員が全力でサポートをする。	・学校評価「教育環境整備」の項目で生徒・保護者が「はい」の評価の向上（R6:59%→R7:70%）					
5	<現状> ○各教職員が、ICT機器の活用や授業改善に向けて、意欲的に研修を進めている。 <課題> ○ICT機器の活用において、より効果的な活用方法など実践的、計画的に研修が必要である。	・「生徒が主体的に学ぶ」授業への授業改善の実施	・「教える授業」の脱却を目指し、組織的な研修会を行い、教職員の資質・能力を向上させる。	・学校評価「課題研究・校内研修」の項目で教職員の満足した評価の上昇（R6:19%→R7:35%）					
		・各教職員のライフステージに応じた研修の実施	・管理職との面談等とおして、1つでもスキルアップできるよう、助言と支援をする。	・教職員の研修について、キャリア振り返りシートを活用し、自己評価の第2回目の振り返り評価の上昇（R6:3.1ポイント→R7:3.4ポイント）					

目指す学校像	「活気ある学校」 ○何事も本気で取り組む生徒 ○生徒の良さを見つけ育てる教師 ○生徒・職員・保護者と一体となった地域
重点目標	1 「学びのポイント」「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業の工夫改善 2 安心・安全な学校生活を目指し、自己肯定感を高める生徒指導・教育相談の充実 3 コミュニティ・スクールのさらなる連携と協働の充実 4 教職員一人ひとりが力を発揮し、居心地の良い学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日	令和7年2月14日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○すべての授業において、落ち着いた課題に取り組む姿勢が見られる。 ＜課題＞ ○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒は多いが、やや学力の二極化が見られる。 ○意欲的に学習する生徒は多いが、主体的に物事を考え、活動につながらない生徒も少なくはない。	・学びの自律化、探究化に向けた情報端末の活用と授業改善 ・発表などにおいて、自分の言葉で表現する力の育成	①「学びのポイント」を活用した授業公開を各教科で年間1回以上取り組み、生徒が主体的に学べる「探究的な学び」を実践する。 ②「学びのポイント」「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業の工夫改善をする。	①学校評価「授業」の項目で生徒・保護者の肯定的評価の維持（R5:89%→R6:95%） ②学校評価「生徒に課題意識をもたせた分かりやすい授業を行う」の項目で教職員の肯定的評価の維持（R5:93%→R6:95%）	①「授業」の項目について、生徒・保護者の肯定的な回答は90%であった。 ②「生徒に課題意識をもたせ、分かりやすい授業を行う」の項目について、教員の肯定的な回答は93%で、常に授業改善を意識している。	B	○「個別最適な学び」の視点より、より基礎学力の定着を図る。その上で個々に適した学習を行う。 ○次年度は「学びのポイント」（自分で決める・思考する・試行する）を意識し、ICTを効果的に活用する授業を展開する。	○生徒の授業の様子は真剣に取り組んでいることから概ね成果が表れている。今後も生徒一人ひとりの状況を把握し、最適な指導をお願いするとともに、分かりやすい授業の工夫・改善に努めてほしい。	
2	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ＜課題＞ ○教職員と生徒一人ひとりとの信頼関係の構築が大切であり、生徒とのかかわりをもつ機会を多く創る必要がある。 ○災害時や危機対応時の教職員の連絡体制や緊急時の動き方の研修会を行い、徹底した訓練を生徒への指導に活かす必要がある。	・生徒一人ひとりへのきめ細かな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実 ・教職員の危機意識と生徒自身の自助共助、安全な学校生活の実現	①情報端末を活用した生徒のアンケートや校務支援システムの活用を蓄積し、生徒の状況を継続的に把握する。情報を共有し、教職員が一人で抱え込むことのないように組織で指導支援を行う。 ②教職員が生徒とのかかわりをもつ時間を増やす工夫をする。	①学校評価「教育相談」の項目で生徒・保護者の肯定的評価の維持（R5:80%→R6:90%） ②全国学習状況調査質問「よいところを認めてくれているか」の項目で肯定的評価の維持（R5:95%→R6:100%）	①「教育相談」の項目について、生徒・保護者の肯定的な回答は87%であった。そのうち保護者の回答は95%であった。 ②「よいところを認めてくれているか」の項目について、肯定的な回答は94%であった。	B	○分かる授業を通して、教師と生徒の信頼関係を構築させる。 ○「心と生活のアンケート」やスクールダッシュボード「おはようメーター」を活用し、個々の心の変容を学年で把握させる。	○いじめや不登校生徒について、学校はよく取り組んでくれている。今後も学校と家庭で連絡を取合い、少しでも生徒の不安を解消できる取組を実施してほしい。また、地域の主任児童委員や民生委員との連携を図り、問題解決の一助としてほしい。	
3	＜現状＞ ○学校運営協議会、社会福祉協議会、東中よくし隊、自治会、PTA等、地域や保護者は東中に強い愛着を示し、協力と支援体制が確立されている。 ＜課題＞ ○学校運営協議会で、目指す生徒像や身に付けさせたい力などを熟議し、その実現のために家庭・地域の方々と活動を充実させる必要がある。 ○地域とのかかわりやボランティア活動に生徒が主体的に参加をすることを増やし、ふるさどであるこの地をさらに大切にすることを培う必要がある。	・地域との連携・協働によるさらなる生徒の自己肯定感を醸成する教育活動の展開 ・生徒が主体的な活動となる教育活動の展開	①地域等の支援から連携・協働へとさらなる進化、深化を図り、共通理解、共通行動を行う。 ②学校HPの情報を適宜更新し、家庭・地域が学校の取組について情報を共有する。	①学校評価「教育情報の開示」の項目で保護者の肯定的評価の維持（R5:89%→R6:95%）	①「教育情報の開示」の項目について、保護者の肯定的な回答は95%であった。	B	○学校HPの週1回の更新やスクリーンを活用し保護者・地域への情報提供に努める。	○地域は、行事を盛り上げるために、中学生の力を頼りにしている。今後は関係団体とより連携を図り、さらに中学生の参加しやすい工夫を図っていただきたい。	
4	＜現状＞ ○ICT機器の有効な活用方法について、エバンジェリストやICTサポーターを中心に研修を重ねている。 ○教職員一人ひとりが、自分に適した研修を進めている。 ＜課題＞ ○ICTの活用について、教職員間で取組が見られる。さらに効果的な活用方法の工夫改善が必要である。	・当事者としての自覚をもった教育活動の実践	①エバンジェリスト、学校課題研修主任を中心に、ICTを活用しながら組織的に研修会を行い、教職員の資質・能力を向上させる。 ②「キャリアnavi」と研修受講履歴を活用し、面談等で個々の強みを活かした研修となるよう助言する。	①学校評価「課題研究・校内研修」の項目で教職員の満足した評価の上昇（R5:26%→R6:50%） ②教職員の研修について、キャリア振り返りシートを活用し、自己評価の第2回目の振り返り評価の上昇（R5:3.0ポイント→R6:3.4ポイント）	①「課題研究・校内研修」の項目について、教員の満足した回答は19%、ほぼ満足70%であった。 ②キャリア振り返りシートの第2回目の振り返り評価について、3.1ポイントであった。	B	○働き方改革にはICTの効果的な活用が重要であり、次年度はAI機能の活用の仕方を研修し、事務作業時間を減らし、生徒とかわる時間を増やす。	○引き続き、教職員が主体的に取り組むことができる研修の内容や方法を検討してほしい。	